

第20回新聞発表

イノシシ被害対策 **これでいいイノ?**

池田 泰太郎

岩下 彩聖

小松 千尋

長島 由莉



>> 本日の流れ

- 新聞記事・概要
- いわき市について
- 問題点・現状整理
- 問題意識
- 政策案

新聞記事

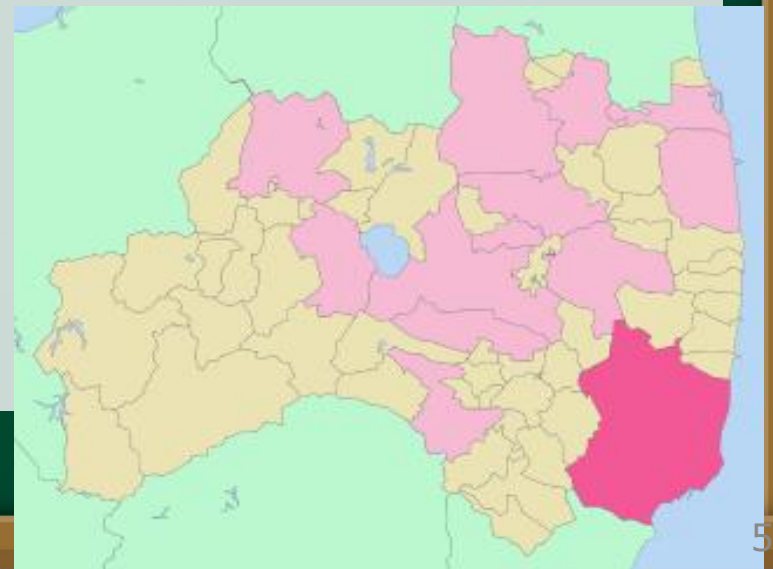
- ◆県、イノシシ1頭5000円 奨励金導入
東京電力福島第一原発事故の影響で、県内で狩猟離れが深刻化している。野生動物から規制値を超える放射性物質が検出され、捕獲しても食べることができないためだ。野生動物による農作物被害は年間1億円以上に上り、県はイノシシ1頭につき5000円の奨励金を導入するなど、ハンターの確保に乗り出した。
11月からの狩猟解禁を前に、県は10月、9種類33個体の野生動物を捕獲し、放射性物質の検査を行った。このうちイノシシとツキノワグマ、ヤマドリ計14個体で、食肉の国の規制値（1キログラム当たり100ベクレル）を超えた。県は過去の検査結果も踏まえ、これらの動物について出荷を制限し、自家消費も控えるように指導。捕獲しても焼却や土に埋めて処分するしかない。
県自然保護課によると、10月末時点の狩猟者登録は3239人。原発事故前の2010年度は4779人が登録しており、2年間で3割以上減った。登録料や猟銃の更新手続きなどで年間2万～5万円かかるという、県猟友会福島支部の佐久間貞二支部長は「食べられなければ、狩猟の意味がないと考える人が多いのではないか。狩猟技術が途絶えてしまう」と危惧する。
一方、県内で野生動物の出没や農作物への被害は後を絶たない。今年度のクマの目撃は398件（10月末現在）に上り、前年度同期に比べて3倍強。今年9月には、人が襲われ死亡する事故もあった。
県はハンターの狩猟意欲を引き出そうと、今年度からイノシシ1頭の捕獲につき5000円を支払う制度を創設。2000頭分の予算を確保した。いわき市も1頭につき1万円を支払う制度を本格導入した。
鳥獣害対策に詳しい県農業総合センターの木幡栄子主任研究員は「原発事故で山に入る人も減り、野生動物が人里に出ている可能性もある。被害防止のため、地域住民とハンターが連携して対応する必要がある」と指摘している。
- （読売新聞(2012.11.22朝刊)「県、イノシシ1頭5000円 奨励金導入」)

新聞記事概要

- 震災後放射能汚染問題により、狩猟で得た鳥獣を食肉できなくなった
- 結果山での個体数が増えすぎてしまい、人里に出没し、農作物被害が増加した
- 狩猟人口の減少が原因とみられるため、福島県・いわき市ともにイノシシ捕獲への奨励金制度を今年4月より開始した

いわき市概要

- 福島県浜通り南部に位置する。
- 人口東北2位、面積東北3位の市である。
- 原発事故後、転出者約7000人。
- 牡丹鍋は旅館等でもふるまわれており、親しまれていたようである。



問題点・現状整理

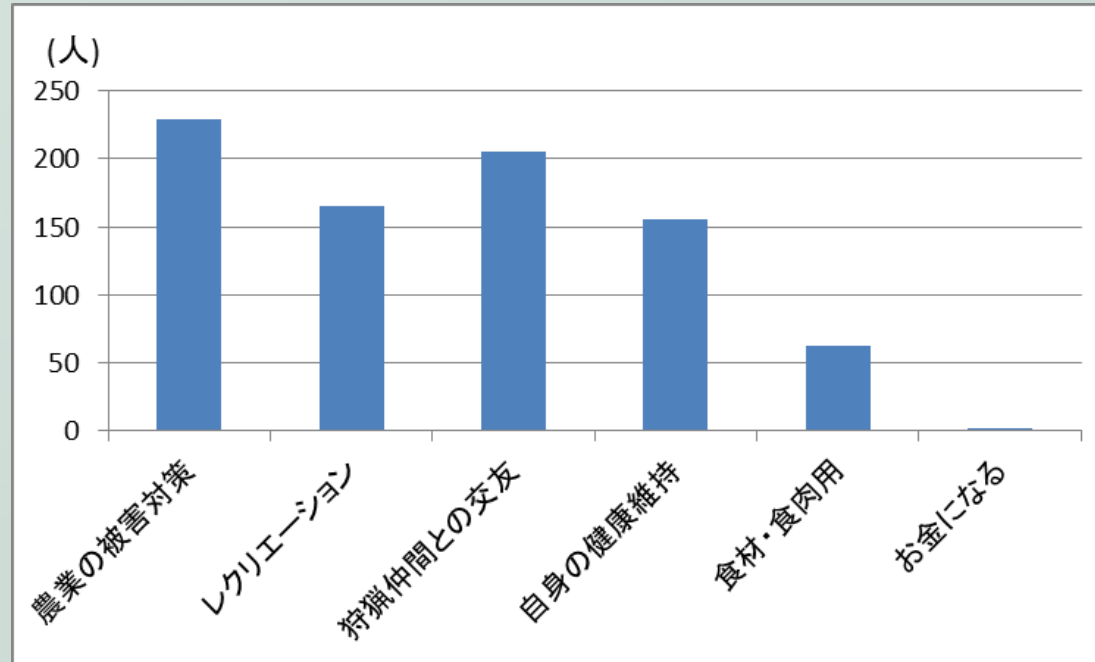
- 食肉できなくなってしまったことで狩猟人口が減ってしまった。
- →イノシシの個体数の増加がみられる。

- 人里へ出没し農作物への被害が増加

- 県や各自治体が奨励金を設けて狩猟を活発化させようとしている。

>>奨励金は食肉用途を超えるインセンティブとなりうるのか...??

狩猟の目的



平成20年度イノシシ生息状況等調査業務報告書

(http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/shizen_h20inoshishiseikoku_jyoukyoucyousa.pdf)より作成

狩猟の目的



お金は
インセンティブにならない！！

平成20年度イノシシ生息状況等調査業務報告書

(http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/shizen_h20inoshishiseikoku_jyoukyoucyousa.pdf)より作成

頭数のシミュレーション

- ・ 福島県イノシシ保護管理計画

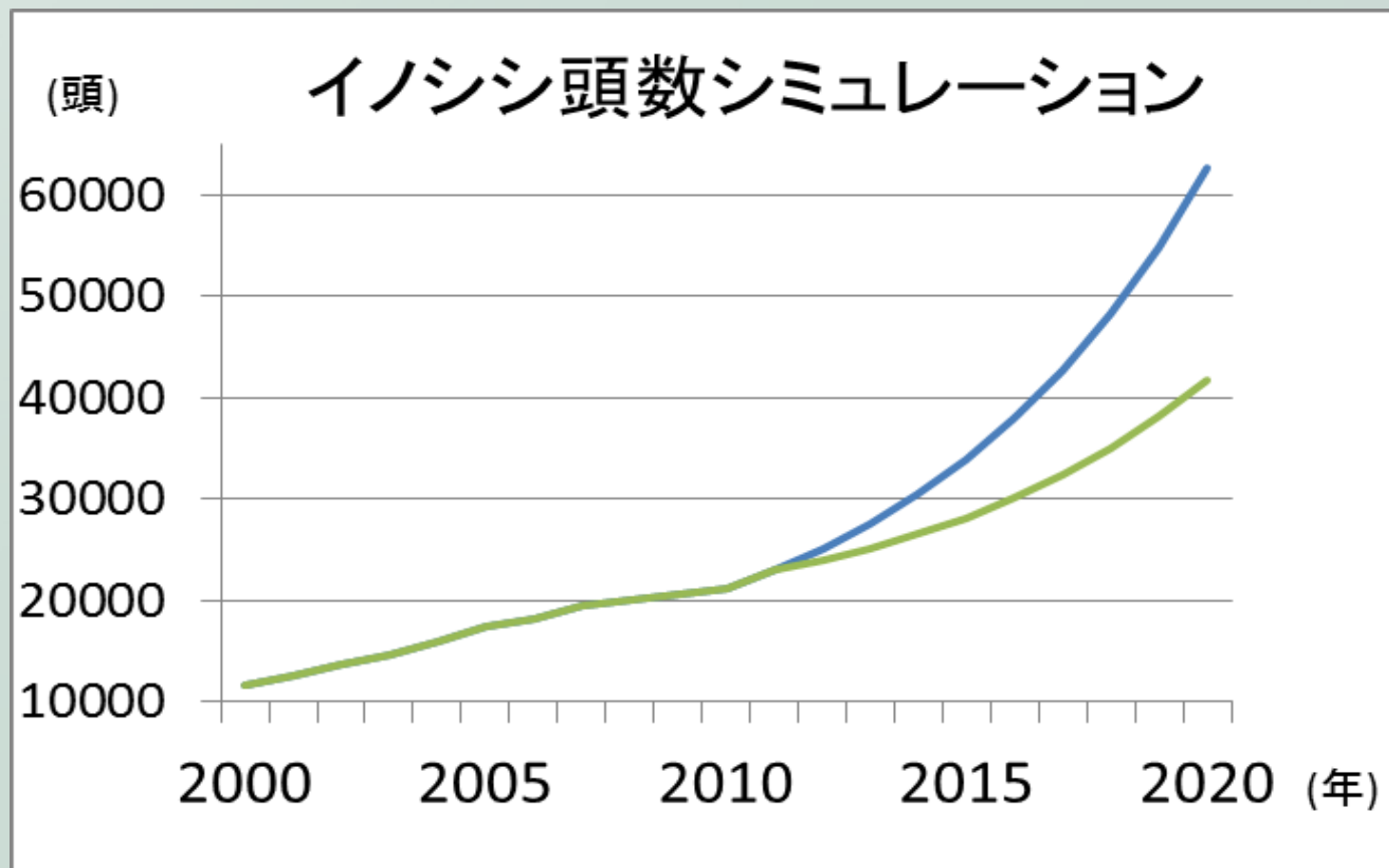
http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/shizen_inoshishikeikaku.pdf

を参照

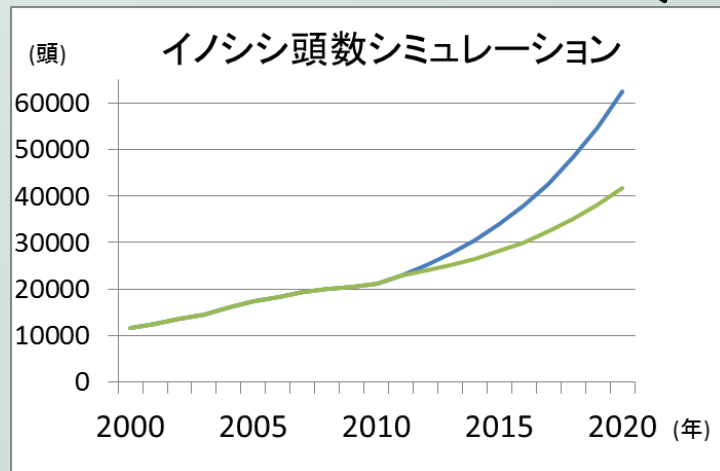
- ・ イノシシの自然増加率を1.178とする
- ・ イノシシの生息数の推定式を以下のとおりとする

$$[\text{推定生息数}] \times [\text{自然増加率}] - [\text{捕獲数}]$$

イノシシの頭数



イノシシの頭数



青：何も対策しない場合 (毎年2000頭)

緑：奨励金を1500頭分活用した場合 (毎年3100頭)

現政策のままでは
イノシシの増加を食い止められない！！

問題意識

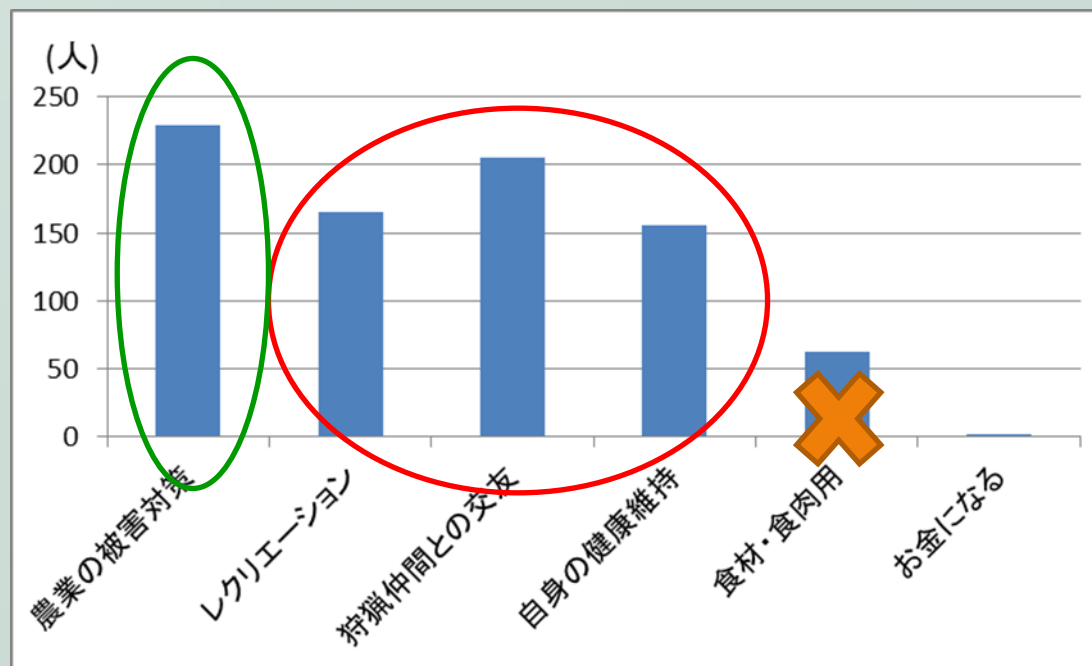
- 政策が不適切なのではないか？

→ 現政策では…

ハンターの減少とイノシシの増加
を食い止められない！！

問題意識

- 考えるべき政策



この2つの層を増やす政策ではないか？

政策提言

モンスターハンターツアーの企画
シシトレールの無料貸出

政策の概要

- 奨励金として使われる予算(県全体で2000万円以上)を用いて以下の2つの政策を行う

モンスターハンターツアーの企画
シシトレールの無料貸出



Monster hunter tour



ターゲット

ハンター（現地のみ）

趣味にしている人



目的

増加傾向にあるイノシシの捕獲

狩猟者増加の援助



内容

狩猟大会の開催




ターゲット



現地のハンターのみ

 いわき市による報奨金は福島県猟友会の会員のみ

 県内の狩猟人口の著しい減少への対策

2010年は約4800人



2012年は約3200人



1600人の減少

 地元地域の活性化



狩猟大会



参加者：現地のハンターのみ

競技内容：イノシシを仕留めた数によって
順位が決定


賞金総額：イノシシの数×1万円


賞金総額の何割かをハンターを目指す人
のための奨励金として納める




メリット&デメリット





 メリット 

 話題性によるPR

 ハンターの娯楽

 ハンター人口増加の推進

 デメリット 

 個人の費用がかかる

 効率が悪い



シシトレール



～あなたをつかまえたイノ～



ターゲット

くくり罠を使う農家

農業被害に困っている人



目的

イノシシの捕獲

農業被害の軽減



内容

市の箱型罠の補助による捕獲



ターゲット



くくり罠を使っている農家



農業被害が約1億円



くくり罠より箱罠の効果の方が大きい

※現在はほとんどがくくり罠



箱罠のPR



箱型罾シシトレール



イノシシ被害に困っている農家に箱型罾を
無償で貸し出す

購入費(1台約10万円)、維持費など

罾にかかる費用は全て市が負担する

イノシシを捕まえても報奨金は払わず、

そのお金を罾代等に充てる



メリット&デメリット



メリット



仕掛けるだけでいいので楽



1度に何頭か獲れる



費用がかからない



デメリット



運次第

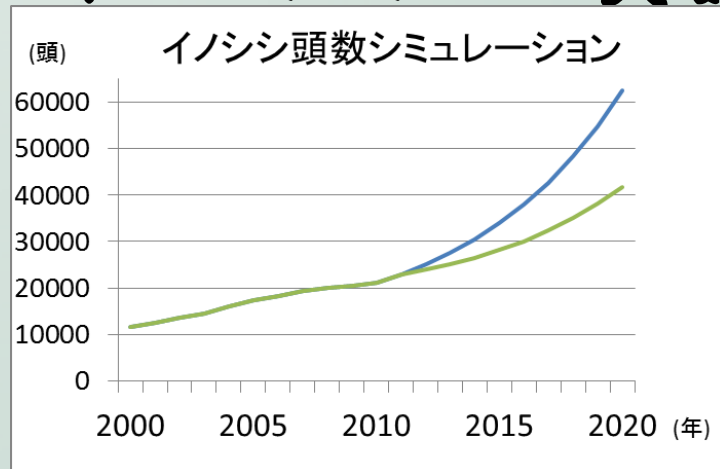


ハンターの増加が見込めない

分析

イノシシの頭数シミュレーション

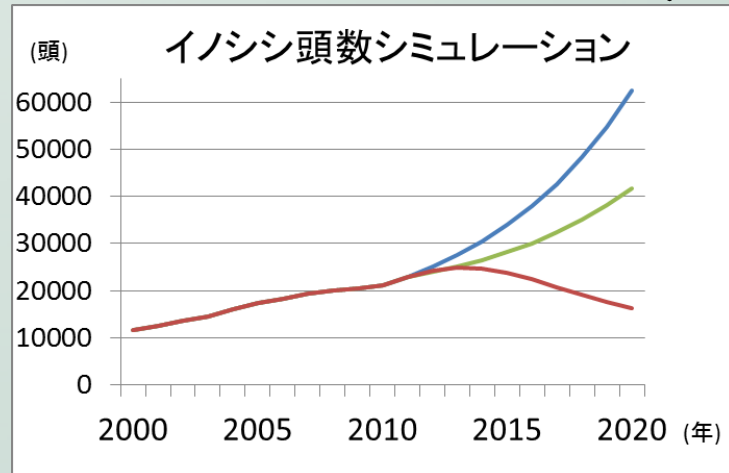
イノシシの頭数



青：何も対策しない場合

緑：奨励金を1500頭分活用した場合

イノシシの頭数



政策1:狩猟大会を1週間実施
政策2:シシトレールを5年で1000台
(毎年200台ずつ)導入

青：何も対策しない場合

緑：奨励金を1500頭分活用した場合

赤：政策1, 2を導入した場合

イノシシの頭数減少が見込める！！

まとめ

- 現政策ではイノシシの被害を食い止められない



ハンター数を増やす政策、
捕獲効率を上げる政策を行う！

参考文献

読売新聞(2012.11.22朝刊)「県、イノシシ1頭5000円 奨励金導入」

平成22年度 福島県イノシシ保護管理計画(2012年12月25日参照)

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/shizen_inoshishikeikaku.pdf

平成24年度 いわき市鳥獣被害防止計画(2012年12月25日参照)

http://www.city.iwaki.fukushima.jp/dbps_data/_material_/localhost/07_norin/1010/tyoujyu.pdf

平成24年度 いわき市イノシシ捕獲報奨金制度(2012年12月25日参照)

<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/bukyoku/seikatsukankyobu/kankyokikaku/013360.html>

シシトルール九州自然環境研究所(2012年12月25日参照)

<http://www.sisitoreru.com/>

ご清聴
ありがとうございました！

